

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実



学習内容の定着を図る「振り返る活動」とは、授業のまとめの段階などに、今日は何を（内容）、どのように考え（思考過程）、そこから何を理解し（意味）、何を見い出すことができたか（価値）を振り返る学習活動のことです。

「振り返る活動」の主な目的

【学習内容の確実な定着】

→ 子どもが何を学んだのか実感でき、本時の学習内容を確実に身に付けさせることができる。

【学習意欲の向上】

→ 自己の変容や成長を自覚させることにより、充実感や満足感を味わわせ、次時への意欲を高めることができる。

「振り返る活動」によって、このような資質や能力が育成されます。

「振り返る活動」を取り入れていくことで、自分にどのような知識・技能が身に付き、どのような思考力、判断力、表現力等が育ったのかを確認できるようになります。これにより、今後の自己の学習に対して、「前の方法は使えないかな」「他の場面には使えないかな」などと、見通しを立てて考えることができるようになり、自主的に学ぶ態度が育成されることが期待できます。

「振り返る活動」を充実させるためのポイント

(1) 学習内容の確実な定着

ア 本時のまとめは、課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。

例 ○ 板書で学習内容を振り返りながら教師と一っしょにまとめる。

○ キーワードを示して子ども自身がまとめる。

○ 子ども自身が本時の学習内容を振り返り自分自身の言葉でまとめる。



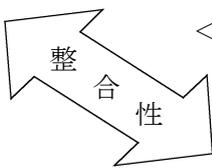
10/4(火)

め 電じしゃくのはたらきを大きくするにはどうすればよいだろうか。

<予想>

- ・電池の数を増やす
- ・コイルのまき数を増やす

<実験>



<結果>

1班 2班 3班 4班 5班

<考察>

ま 電磁石のはたらきを大きくするには、電流を強くしたり導線のまき数を多くしたりすればよい。

めあてとまとめの文脈がつながるように意識するといいですね。

イ 解決された内容を再生して確認したり、習熟の機会を設けたりしながら、学習内容を定着させる。（※再生の例・・「電じしゃくのはたらきを大きくする方法を隣の友達に一つ話そう。」）

ウ 本時のまとめに関連した問題を出して評価し、結果に応じて補充指導を行う。（形成的評価）

(2) 学習意欲の向上

ア 学習感想を書く際には変容をとらえる視点（できるようになったことや工夫したことなど）を明確に示し、よさや自分の成長を自覚させる。（1）のアとは違う視点から書く。

イ 発展的な内容を意図的に取り上げたり、まだ、解決されないことは何かを考えさせたりして、次時への意欲付けを図る。

学習の足跡が残るノート指導



ノートは、学習の足跡が残る大切なものです。学んだことを確実に身に付けるために、また、復習などにも役立つように次のような指導をしてはどうでしょうか。

- 発達段階や教科等の特質を考慮して、共通理解を図ったノートづくりの指導を行う。
- 板書を写すだけでなく、どこに、何を書くのか、教科等に応じて具体的に指導する。
- 色鉛筆やボールペン等の使い方を決める。また、消しゴムの使用を制限し、思考の過程を残させる。
- 意図的にノートを評価し、よい点を称賛する。問題点については具体的に改善点を示し励ます。

形成的評価と補充指導

- 目指す児童生徒の姿を明確にした評価規準を学習過程に設定し、学習状況を多様な方法で評価する。
- 評価結果に基づいて子どもの学習を支援したり、学習活動を変更・改善したり、指導方法を改善したりする。

自己評価や相互評価

- 評価する必要性を実感させる。
- 初めは評価の観点や項目例などを示す。
- 文章で書く評価も取り入れる。
- 評価活動を肯定的に認め励ます。
- 時期と方法を計画的に設定し、継続する。

本時のまとめの充実が授業の決め手!!

＜小学校2年 算数「ひき算のひっ算」 ※39-15の計算の場合＞

【本時のめあて】 2けた-2けたのひき算は、どのように計算すればいいのかな。

【児童の考えの例】

【ブロックで考えたA児】

【図をかいて考えたB児】

【お金で考えたC児】

【式で考えたD児】

あなたのまとめ方を振り返ってみましょう。

まとめのない授業になっていませんか？

練習問題をして終わる授業（特に、まとめを板書しない。）

今日何の勉強したのかな。



子どもの感想だけのまとめで終わっていないでしょうか？

共有と吟味の中で、A～D児の考え方について理解を図った後で、
教師：いろいろな考え方があったことが分かったね。

では、分かったことや感想をノートにまとめましょう。

どの考えがよかったのかな？



一人の考えだけでまとめをしていることはありませんか？

A～D児の考え方について共有と吟味を行った後で、
教師：Dさんの考えがいつでも簡単にできる方法だね。どれも10のまとまりとばらに分けて考えているけど、Dさんのように十の位と一の位に分けて計算するのいいね。

教師：（まとめを板書）「2けた-2けたのひき算は、位ごとに分けて計算する」

教師：では、練習問題をやりましょう。（答え合わせをして、授業終了）

わたしの考えじゃ、だめなのかな？



確かな学力の定着につながるまとめ方の例

A～D児の考え方について共有と吟味を行った後で、
教師：どの考えも10のまとまりとばらに分けて考えているけど、みんなが言うようにDさんの考えが簡単にできそうだね。いつでもその考えが使えるか、Dさんの考えで「68-24」（類題）を解いてみよう。
C児：なるほど、Dさんの考えのように十の位と一の位に分けて計算するのいつでも簡単にできますね。

教師：（まとめを板書しながら）2けた-2けたのひき算は？

全員：位ごとに分けて計算する。

教師：では、練習問題をやりましょう。（適用問題をする）

教師：今日の学習で分かったことやよかったことをノートに書きましょう。

B児：図をかくのは大変なので、これからは位ごとに分ける方法を使って計算しようと思いました。

A児：はじめはブロックを使ったけど、位ごとに分けて計算する仕方が分かったの、それを使って練習問題が全部できました。

教師：ところで、43-19のような計算はできるかな？

D児：あれ？位ごとに分けただけでは計算できない・・・。
（次時の課題へつなげて、授業終了）

まとめをする前に類題を解き、一般化を図りたい。また、類題を解くことで友達の考えに実際に触れ理解を深めさせたい。

児童の言葉を生かしながらまとめを行い、学習内容や自分の成長について振り返りをさせたい。

今日の学習がよく分かってうれしいな。次も楽しみな。

